ST（言語聴覚士）活躍の場がたくさん！

- 摂食・嚥下機能障害
- 高次脳機能障害
- 失語症
- 構音障害

それぞれの分野で
チームがある！

得意な分野がみつ
かる！！

苦手な分野もチーム
がフォローしてくれる

摂食・嚥下機能

NST（栄養サポートチーム）

栄養に特化したチーム！

吸引

間接・直接嚥下訓練前後で実施！

嚥下勉強会

STから他職種に向けて勉強会を実施！

嚥下回診

摂食・嚥下機能障害の患者様の訓練内容や食事選択に悩んでしまう。
歯科医の先生と一緒に回診できる♪

VE（嚥下内視鏡検査）

患者様の部屋で歯科医師によるVE実施ができる♪

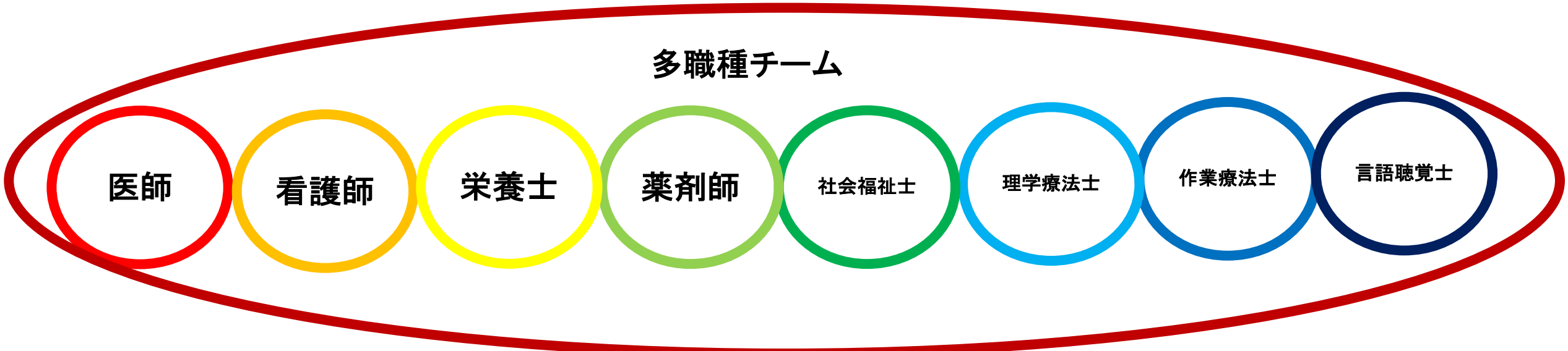
ジェントルスティム

嚥下機能への低周波アプローチ！

NST（栄養サポートチーム）

患者様の栄養についてアプローチ方法を考えるチーム

摂食・嚥下機能障害や整形疾患、全ての患者様の栄養状態やリハビリの進行について話したり、退院後の患者様もフォローします！！



嚥下回診

1人で訓練を考えることが**不安**。。
食事形態は変更できる？
水分のトロミはどうしよう。。

そんな**悩みを相談**できる場所が
嚥下回診！！

歯科医・主治医・ST・看護師　で
患者様の評価・訓練を一緒に実
施できるから安心できます！

VE（嚥下内視鏡検査）

視覚的に嚥下の評価ができる！

当院に歯科医師が来院し、患者様の自室で実施できるため、患者様の負担も軽減！

　実施しながら訓練や食事の相談可能

VE実施後は動画で先輩方に相談も可能！

吸引

看護師から
①基礎研修
②実技研修
③実践練習
をマンツーマンで指導が受けられる！！
その後は
④試験　を受け独り立ち！

安心して学べるサポート体制！

ジェントルスティム

痛みの少ない干渉波刺激が神経に作用し、
摂食嚥下障害に対するリハビリテーションをサポートの機器を当院に入れています！！

嚥下の勉会

ST主催！

NS・CW・PT・OT向け

実際の嚥下食を試食しながら、

楽しく学ぶ！

高次脳機能・失語症

●就労支援リハビリﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑQOL-10

就労・就学に特化したﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ！！
当院独自！！

●ﾄﾞﾗｲﾌﾞｼﾐｭﾚｰﾀｰﾁｰﾑ

退院後、車の運転を希望する方へ向けた
サポートチーム

●失語症勉強会

STから他職種に向けて勉強会を実施！

●外来リハビリテーション

退院後の患者様も通院でリハビリテーション！
生活期のリハビリテーションも継続的に実施できる！

● OT・STミーティング

OTとSTで高次脳機能評価の検討会を実施
実践の臨床ケースで学んでいく！！

就労支援リハビリプログラム・QOL-10

回復期リハビリテーション病院ならでは！！

入院患者様の復職・復学支援に向けたプログラムチーム　Dr・NS・MSW・RH参加！

高次脳機能障害を中心に就労・就学に向け評価・訓練実施

ST大活躍！！！

QOL-10：10日間で復職に向けた評価全般を実施し、
その結果を元に就労・就学に向けた提案をする

ドライブシミュレーターチーム

- <u>ドライブシュミレーター（HONDA　セーフティーナビ）</u>

アクセル・ブレーキ操作や反応時間などを仮想環境上のコースから評価することができます。

- <u>SDSA（脳卒中ドライバーのスクリーニング評価）</u>

4つの検査で構成されており、注意・空間認知などから脳卒中の運転能力を評価します。

外来リハビリテーション

- 自宅に帰ったあともリハビリを継続できるよう、外来リハビリを実施し、生活期も寄り添うことができます。
- 就労や家事動作　等もフォローしていける。

就労支援施設や社会福祉士との担当カンファに出席する事も！

失語症勉強会

基礎勉強会

ロールプレイ

年に1度　失語症について、
病棟・リハビリ科全体にST
主催で勉強会を実施

病院全体で失語症患者様
のコミュニケーション方法
を勉強！！

OT・STミーティング

OT

ＯＴ目標

・具体的な離床活動時間の設定

・目標とする ADL・動作の自己、介助の程度の設定

・目標とする ADL・動作の動作方法の設定（身体機能・認知機能・高次脳機能に則したもの）

・環境設定　　等

例）連続車椅子離床１時間、左手（健側手）スプーンでの食事自

問題点

・身体機能面、認知期能面、高次脳機能面に照らし合わせた、OT 目標を達成するための阻害因子。

例）利き手が麻痺（上肢Ｂｒｓステージ Ⅱ）

車椅子座位保持困難（耐久性・BP 変動等）

麻痺、注意障害によって自己管理困難

ＳＴに求めること

・総合的なゴールにむけて、OT 目標を達成する為に必要な ST 分野の達成時期や獲得してほしい能力の依頼や質問事項。

例）車椅子座位での食事摂取（嚥下機能として）

利き手交換での食事摂取訓練期間を考えて、ENT２ヶ月前の時期での食形態の予測。

ST

ＳＴ目標

・具体的な目標とする嚥下機能や状態

・目標とする食事形態

・目標とする食事方法（予後としての嚥下機能や認知機能・高次脳機能に則したもの）

例）３食　常食にて自己摂取

問題点

・摂食嚥下機能、認知期能面、高次脳機能面に照らし合わせた、ST 目標を達成するための阻害因子。

例）咽頭期における機能的問題（嚥下圧・咳喀力の低下）

食思低下

注意障害による摂取状況の自己管理困難（一口量の調整）

ＯＴに求めること

・総合的なゴールにむけて、ST 目標を達成する為に必要な OT 分野の達成時期や獲得してほしい能力の依頼や質問事項。

例）獲得できる座位の安定性（いつ頃にどの程度）

非利き手での使用できる道具の選定

車椅子のポジショニング

総合的なゴール

担当の設定したゴールを記載

例）入院５ヶ月で車椅子座位で３食常食経口での自己摂取

OT・STが集まり

○評価結果の分析・目標の立案し、

情報共有の大切さを

再認識する場

○実際の臨床ですぐに実践できる情報の共有の場